



## 2026年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年11月6日

上場会社名 株式会社ソケット

上場取引所 東

コード番号 3634 URL <https://www.sockets.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 浦部 浩司

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートマネジメント室 室長 (氏名) 茂田 輝子 TEL 03-5785-5518

半期報告書提出予定日 2025年11月7日 配当支払開始予定日 -

決算補足説明資料作成の有無：有 「2026年3月期第2四半期決算説明資料」を同日付で公表しております。

決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第2四半期（中間期）の業績（2025年4月1日～2025年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	530	9.8	16	-	17	-	20	-
2025年3月期中間期	483	△0.2	△81	-	△81	-	△71	-

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年3月期中間期	8.39	-
2025年3月期中間期	△29.14	-

(注) 2025年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益は、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため、記載しておりません。また、2026年3月期中間期の潜在株式調整後1株当たり中間純利益は、潜在株式は存在するものの希薄化効果を有していないため、記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年3月期中間期	831	562	64.2
2025年3月期	814	552	63.9

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 534百万円 2025年3月期 520百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年3月期	-	0.00	-	3.00	3.00
2026年3月期	-	0.00	-	-	-
2026年3月期（予想）	-	-	-	4.00	4.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有  
詳細につきましては、2025年11月6日公表の「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 3. 2026年3月期の業績予想（2025年4月1日～2026年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,100	5.8	31	-	32	-	24	-	9.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
詳細につきましては、2025年11月6日公表の「2026年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年3月期中間期	2,477,400株	2025年3月期	2,477,400株
2026年3月期中間期	24,685株	2025年3月期	24,685株
2026年3月期中間期	2,452,715株	2025年3月期中間期	2,452,717株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・当資料に記載している業績見通し等の将来に関する予測は、本資料の発表日現在において当社が入手可能な情報及び、合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであり、実際の業績等は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想の利用については、添付資料P. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- ・決算補足説明資料はT D n e tで同日開示しています。
- ・当社は2025年11月6日（木）に機関投資家・証券アナリスト・個人投資家向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する資料については、開催後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 当中間期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当中間期の財政状態の概況 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 中間財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 中間貸借対照表 .....	4
(2) 中間損益計算書 .....	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書 .....	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項 .....	7
(継続企業の前提に関する注記) .....	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	7
(セグメント情報等の注記) .....	7
(重要な後発事象の注記) .....	7

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、依然とした戦争、紛争を交えた国際的に不安定な政治情勢、米国の通商政策の先行きの不透明感、国内外における物価上昇傾向、地域格差の広がり、地球規模でのエネルギー・環境問題など、引き続き複雑かつ不透明な状況にあります。国内の景況感においては、インバウンド需要や製造業における業績の好調さはあるものの、小売価格の上昇も伴い個人消費は依然として伸び悩み、全体としては横ばい感がある状況にありました。

このようなますます多様性や複雑性が増す現在の社会において、自分らしく生きる、より良く生きる、という生き方への価値観への変化は確実にゆっくりと起きております。

その中で、エンターテインメントやスポーツなどの分野を中心に自分の好きをエネルギーに活動する、いわゆる推し活と言われる行動様式が広まっております。

一方では生成AIをはじめとしたAI技術の進展は凄まじく、AIと人間の関係性においては、今後ますます課題と可能性の相反に向き合う状況が進むことが予想されています。それらのその影響はエンターテインメントというクリエイティブな領域にも今後ますます及んでいくことが見込まれております。

当社は、通常のAIでは捉えきれない人間の感性や感情をデータで理解する独自の感性AIを開発し、エンターテインメント分野の発展に寄与してまいります。

事業としてエンターテインメント×感性マーケティングという分野を開拓し、独自の感性AIを活用し人それぞれの“自分の好き”や“新しいエンターテインメント・コンテンツとの出会い”を見つけて過ごす価値ある時間(Quality of Life)の増加に貢献する事業活動を行なっております。具体的には、インターネットにおける音楽、映像サービスやインターネット広告サービスにおけるレコメンドや検索に活用するデータやシステムの提供を行っております。

当社独自の感性データ技術は、これらのエンターテインメントデータサービスや広告サービスを通じて生活者視点でいえば、自分の“好き”や“推し”に出会うというセレンディピティの実現、自分の好みの深掘り、自分らしいライフスタイルをみつけてより良く暮らす、そうした欲求を繋ぎ広げることを可能とする技術です。企業視点から見ても、エンターテインメント分野においては、当社のデータ・技術を活用することで、お気に入りの楽曲、アーティスト、アニメ、ドラマ、映画、俳優、クリエイターなどに出会う機会の増加や音楽、視聴経験の向上への貢献を通じた利用者満足の上昇や売上拡大、感性マーケティング・広告分野においては、短期的ではない中期的な視点による企業が持つそれぞれのフィロソフィー、カルチャー、ストーリー、こだわり、パーパスなどを丁寧に訴求することで、自社商品やサービスが持つ本質的な感性価値、情緒的価値をもとに企業と生活者が共感で繋がるよりコミュニケーション活動への貢献が可能となります。

そしてその先にある当社が培った感性AIとエンターテインメント分野でのデータベース、データマネジメント技術を活用し多くのアーティスト、クリエイターの才能を発見し、それぞれのストーリーや世界観を可視化し、結果として新たなコンテンツ(IP※)の発掘から制作、流通を行い、さらに感性マーケティングを掛け合わせることで、コンテンツ(IP)のプロモーション、コラボレーション、二次展開までのサポートを行うことを可能とします。創業より25年培ったエンターテインメント分野でのデータ関連技術を活用し、当社は今後のIP立国日本に貢献してまいります。

※楽曲、アニメ、ドラマ、小説、コミック、キャラクターなどのIP(Intellectual Property: 知的財産)

アラブ諸国の石油と同等に日本には素晴らしいコンテンツ、そしてそのコンテンツを生み出すクリエイターの存在が、この国の将来を支える土台の一つになりえます。その土台がより継続的に大きく国内外において発展していける企業活動を行います。

当社の強みは、感性メタデータを活用した独自の感性AI開発とエンターテインメント分野を通じた人間が持つ感性や感情を体系的、網羅的、詳細にデータベース化を行った国内最大級の感性データベースであるメディアサービスデータベース(以下「MSDB」といいます)を開発、運用しているところにあります。それらのデータ・技術開発を通じて、人間の感性と感情に寄り添う「セレンディピティ=偶然の幸せな出会い」を生む独自のエンターテインメント×感性マーケティングのデータサービスを行ってまいります。

これらのサービスについては、ユーザーベースをもつパートナー企業への技術ライセンス提供として、KDDI株式会社、株式会社レコチョクを通じた株式会社NTTドコモ、LINEヤフー株式会社、楽天グループ株式会社、

LINE MUSIC株式会社、HJホールディングス株式会社(サービス名「HuJu」)、株式会社フジテレビジョン(サービス名「FOD」)、株式会社集英社、株式会社世界文化ホールディングス、株式会社CEメディアハウス、株式会社ハースト婦人画報社、株式会社講談社などのサービスにて利用されております。

当中間会計期間において独自のエンターテインメントデータサービスや感性広告サービスが伸長する一方で、積

極的な先行投資を継続しつつも、生産性の向上やコストの最適化を推し進めました。

それら事業活動の結果として、当中間会計期間の経営成績は、売上高530,976千円(前年同中間期比109.8%)、営業利益16,174千円(前年同中間期は81,316千円の営業損失)、経常利益17,311千円(前年同中間期は81,177千円の経常損失)、中間純利益20,572千円(前年同中間期は71,460千円の中間純損失)となりました。

(2) 当中間期の財政状態の概況

①資産、負債及び純資産の状況

当中間会計期間末における総資産は、831,845千円(前事業年度末比17,116千円増)となりました。流動資産につきましては741,867千円(同45,117千円増)となり、増減の主な要因としましては、現金及び預金の増加(同71,061千円増)、売掛金の減少(同38,495千円減)などがあったことによります。固定資産につきましては、89,977千円(同28,001千円減)となりました。これは主に、本社移転に伴い敷金及び保証金の回収により減少したことによるものであります。

負債は、269,456千円(同6,973千円増)となりました。増減の主な要因としましては、退職給付引当金の増加(同8,174千円増)などがあったことによります。

以上の結果、純資産は、562,388千円(同10,142千円増)となり、自己資本比率は、前事業年度末の63.9%から64.2%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」といいます。)は前事業年度末に比べ、71,061千円増加し、536,026千円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果獲得した資金は、50,727千円(前年同中間期は57,426千円の使用)となりました。主な収入要因としては、税引前中間純利益22,033千円の計上、売上債権の減少38,495千円であります。一方で主な支出要因としては、未払金の減少13,474千円などであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は、27,680千円(前年同中間期は4,730千円の使用)となりました。主な支出要因としては、有形固定資産の取得による支出34,146千円、資産除去債務履行による支出17,000千円であります。一方で主な収入要因としては、敷金及び保証金の回収による収入81,614千円であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、7,346千円(前年同中間期比22千円増)となりました。支出要因は、配当金の支払額7,346千円であります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期第2四半期(中間期)(2025年4月1日~2025年9月30日)における売上高は、主力事業であるエンターテインメントデータサービスが当初の予想を上回り推移いたしました。

利益面におきましては、売上高の増加に加え、データライセンス事業の拡大と生産性の向上による双方の効果で利益率が伸長しております。また、従来通り先行投資を継続しつつ、コストコントロールも継続しており、2025年5月12日公表いたしました業績予想を上回る見込みとなりました。このような業績動向を鑑み、2026年3月期通期業績予想を上方修正しております。

詳細につきましては、2025年11月6日公表の「2026年3月期通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益 円 銭
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	
通期	1,100	5.8	31	—	32	—	24	—	9.95

(注) %表示は対前年増減比になります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年3月31日)	当中間会計期間 (2025年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	464,965	536,026
売掛金	206,856	168,360
仕掛品	—	8,962
その他	24,927	28,518
流動資産合計	696,749	741,867
固定資産		
有形固定資産	0	32,908
無形固定資産		
ソフトウェア	0	3,462
その他	0	0
無形固定資産合計	0	3,462
投資その他の資産		
敷金及び保証金	105,689	40,594
その他	12,290	13,011
投資その他の資産合計	117,979	53,606
固定資産合計	117,979	89,977
資産合計	814,728	831,845
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	37,458	35,081
未払金	20,007	16,613
未払法人税等	4,770	6,230
賞与引当金	41,217	40,287
その他	39,227	43,267
流動負債合計	142,681	141,480
固定負債		
退職給付引当金	119,800	127,975
固定負債合計	119,800	127,975
負債合計	262,482	269,456
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	505,737	505,737
資本剰余金		
資本準備金	134,137	735
その他資本剰余金	52,306	39,217
資本剰余金合計	186,443	39,952
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	△139,132	20,572
利益剰余金合計	△139,132	20,572
自己株式	△32,099	△32,099
株主資本合計	520,949	534,163
新株予約権	31,297	28,225
純資産合計	552,246	562,388
負債純資産合計	814,728	831,845

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	483,749	530,976
売上原価	274,084	269,679
売上総利益	209,665	261,296
販売費及び一般管理費	290,981	245,122
営業利益又は営業損失(△)	△81,316	16,174
営業外収益		
受取利息	14	26
貸倒引当金戻入額	—	825
受取手数料	28	13
商標権使用料	60	60
未払配当金除斥益	29	39
物品売却益	—	190
その他	5	0
営業外収益合計	138	1,155
営業外費用		
雑損失	—	18
営業外費用合計	—	18
経常利益又は経常損失(△)	△81,177	17,311
特別利益		
新株予約権戻入益	9,982	4,721
特別利益合計	9,982	4,721
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△71,195	22,033
法人税、住民税及び事業税	265	1,460
法人税等合計	265	1,460
中間純利益又は中間純損失(△)	△71,460	20,572

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前中間純利益又は税引前中間純損失(△)	△71,195	22,033
減価償却費	—	1,388
新株予約権戻入益	△9,982	△4,721
株式報酬費用	1,180	1,649
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,910	△930
退職給付引当金の増減額(△は減少)	8,861	8,174
受取利息及び受取配当金	△14	△26
固定資産除却損	—	0
売上債権の増減額(△は増加)	44,012	38,495
棚卸資産の増減額(△は増加)	265	△8,962
仕入債務の増減額(△は減少)	△9,188	△2,377
未払金の増減額(△は減少)	△6,587	△13,474
契約負債の増減額(△は減少)	△4,240	876
未払消費税等の増減額(△は減少)	△401	2,457
その他の流動資産の増減額(△は増加)	△3,880	△4,311
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△7,889	10,614
その他	308	343
小計	△55,841	51,230
利息及び配当金の受取額	14	26
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△1,599	△529
営業活動によるキャッシュ・フロー	△57,426	50,727
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	—	△34,146
無形固定資産の取得による支出	—	△3,612
貸付けによる支出	△5,000	—
貸付金の回収による収入	269	825
資産除去債務の履行による支出	—	△17,000
敷金及び保証金の回収による収入	—	81,614
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,730	27,680
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
配当金の支払額	△7,323	△7,346
その他	△1	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△7,324	△7,346
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△69,482	71,061
現金及び現金同等物の期首残高	678,658	464,965
現金及び現金同等物の中間期末残高	609,176	536,026



(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2025年6月20日開催の第25回定時株主総会の決議に基づき、資本準備金の額134,137千円を減少し、減少した額の全額をその他資本剰余金に振り替えるとともに、その他資本剰余金のうち139,132千円を取り崩し、繰越利益剰余金に振り替えることにより、欠損の填補に充当しております。この結果、当中間会計期間末において、資本準備金は735千円となっております。

なお、剰余金の配当及び準備金の積み立てにより、その他資本剰余金が8,093千円減少、資本準備金が735千円増加しております。

(セグメント情報等の注記)

当社は、モバイル端末向けアプリケーション開発、データベース構築及びそれらを組み合わせたサービスの開発と提供を行う単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(重要な後発事象の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2025年11月6日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

① 自己株式の取得を行う理由

成長投資をした上での利益増加について積極的に株主還元に向けていくという基本方針に基づく

② 取得に係る事項の内容

(a) 取得する株式の種類	当社普通株式
(b) 取得し得る株式の総数	12,500株(上限) (発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合0.5%)
(c) 株式の取得価額の総額	7百万円(上限)
(d) 取得期間	2025年11月7日～2026年3月31日
(e) 取得方法	東京証券取引所における市場買付